

# 浅間山

せんげんやま

令和4年度 No.6  
児市立東児中学校  
令和4年10月1日発行



## ちょっと立ち止まって

生徒指導主事 梅田 佳宏

「トロフィー」「つぼ」「土器」「盃」「向き合っている人」……生徒は実に多様な反応を示しました。右の図を見て、あなたは何に見えましたか。

これは、第1学年国語科「ちょっと立ち止まって」に出てくる「ルビンのつぼ」と題された図を模したものです。中心に見るものを変えると、別のものが見えてくるというわけです。だからこそ、筆者は「ちょっと立ち止まって、他の見方を試してみてもはどうだろうか」と読者に投げかけます。

さて、本校では、SST (Social Skill Training) の授業を定期的に行っています。スクールカウンセラーと協力し、心理学的な側面から生徒の認知に働きかけたり、表現方法を広げたりしています。

その中で、「リフレーミング」を扱います。物事の視点や枠組みを組み直すことを意味します。例えば、集中力が続かない自分がいたとします。その後、多くの場合は反省が続き、結局集中力が上がらないということは、決して少なくないでしょう。この状況を、リフレーミングを通して考えてみると、「いろいろなことに興味もてる」「視野が広い」と捉えることもできます。すると、自分に対する捉えや、後に続く行動が変化してくるようになります。

実際に活用するとすると、確かに難しさがあるかもしれません。ただ、私たち大人がリフレーミングの発想をもっているだけで、生徒にかけられる言葉が変わってくるように思うのです。「400文字で意見なんて書けんし。」という言葉、言葉通りに受け止めたなら、それはあきらめの気持ちとして捉えてしまいがちです。しかし、その言葉に内在するものを考えると、「書こうとして自分自身の力を考えたときに、400文字もいかない」と捉えているかもしれません。そうだとすれば、「書こうとする気持ちはあるのだね。」と認めの言葉をかけたり、「書くために困っていることがあるの。」と内面を引き出そうとしたりする方が、子どもに寄り添った言葉がけになるのではないのでしょうか。もしくは、400字では意見をまとめられないくらい、いろいろな意見があるのかもしれない。

このように考えてみると、「リフレーミング」は、単に褒めるための技ではないと思えてきます。その真価は、価値観を広げるものであると考えることができます。多様な価値観に触れながら、試行錯誤して自分の価値観を形成していく中学生。そういう段階だからこそ、つい自分を責めすぎたり、人と比べすぎて自分を下げてしまったり、ネガティブな思考になることだってあるはず。だからこそ、関わる大人がポジティブな見方、別の考え方を示していくことで、子どもは自身の価値観をより広げていくことができるようになるのです。

前期に自覚した自分や学級の弱さや課題点と向き合い、克服するために強化してきたことをさらに自覚し、後期に生徒たちが一層たくましく自分自身を表現していく土壌をつくるために、私たち大人も、ちょっと立ち止まって、リフレーミングを心がけてみてはどうでしょうか。



## 地域に支えられて育つ生徒

突然のメール、失礼します。桜ヶ丘在住の●●●●と申します。本日夕方、貴校の生徒さんの優しさに助けられましたのでお知らせしたく、メールを差し上げました。本日17:15頃、西友桜ヶ丘店の近くでのことです。私は2人の子供を連れておりました。子供の1人は補助輪付きの自転車に乗っていました。私はもう1人の子供をベビーカーに乗せて歩いていたので、自転車の子供と少し距離が離れてしまいました。そんなとき、自転車の子供が転んでしまったのですが、近くを歩いていた貴校の生徒さんがすぐにかけより、子供が自転車を起こすのを手伝ってくれたのです。迷いなく手を貸すことができる生徒さんの姿がとても印象に残っています。また、普段から貴校の生徒さんと道ですれ違ったりすることもあります。挨拶や会釈をしてくださる子が多く、いい姿だなと思っておりまして、この機に申し添えておきます。この度はありがとうございました。

学校に届いた生徒の励みとなる、あったかいメールです。学校で頑張る生徒が、地域でも“共生”の輝きを放っているのだと嬉しく思うと同時に、学校でもこの輝きに負けない教育を展開しなければならないと強く心に感じました。

また、「最近、自転車の運転の仕方が上手になった。」と声を掛けてくださる地域の方々も多くみえます。地域の方が、生徒の安全な登校を支え続けてくださいます。生徒は毎朝、地域の方の“共生”の支えで確保された通学路を、当たり前のように登校します。生徒の登校を支えて続けてくださる地域の方々に改めて感謝せずにはいられません。

学校での学び、地域での学びがあってこそ、自らの未来に繋がる“自律(力)”“共生(力)”“創造(力)”が育まれると信じています。地域の豊かな環境と人情に生まれ、支えられて成り立つ学びの意味を、今一度、生徒と共に考えてみたいと思います。